

おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

—お手伝い&お当番マジック—

NO. 88



「これ一緒に運んでもらえませんか？」と“お手伝い”を頼まれることってありますよね。何かをされていて手が離せなかったり、時間が無かったりしない限りは、協力することも多いと思います。「助かりました。ありがとう！」なんて言われると、“なんだかいいことをしたな”と気持ちよくなるものです。ちょっと大変だったことも、「いいですよ〜」なんて返しちゃったり。

それとは別に、学校や幼稚園保育所など、どこかに所属していると、何らかの“お当番”が順番にまわってくるがあると思います。自分の番が来ると、「あれれ、きちゃったな」という思いが一瞬よぎったりしますが、役目を果たすと、それなりの達成感や満足感があって、「次、お願いします」＝「ごくろうさま」と晴れやかにバトンタッチできるものですね。子ども達の世界では、お当番を楽しみにしている子が多いように思います。何でだと思いますか？

さて、今回は、その『お手伝い&お当番マジック』についてです。

周囲の出来事や、お友達への関心が高まってくると、関わりの方が少しずつ増えていきます。でも、どう関わっていけばよいか、まだよくわからなかったり、展開についていくのが難しかったりと、なかなか成就しないものです。関わろうと輪の中に入っても、場の雰囲気や相手の意に合わせた関わり方ができずに、自分の意に反してハプニングになってしまい、思い描いたようにならずストレスをためてしまう姿も見受けられます。“関わりたい”“一緒に楽しみたい”という思いは、是非かなえたいところですが、相手のあることなので、“出たとこ勝負”になりがちです。

そこで活かしたいのが『お手伝い&お当番マジック』です。

“お手伝い”って、誰かがやっていることに協力するってことですよ。どこかに何かを運んだり、みんなに何かを配ったり、みんなが使った物を片付けたり。これは、自分でしたいこととは違い、あてがわれたものです。それに応えて最後までやりきり、「ありがとう」「助かったよ」と褒められ終わる流れは、好ましいやりとりのひとつの完成形です。手伝っている振りからでも構いません。ほとんどこっちがやって一緒にいるだけでも、ちょっと手をかけているだけでもOK。人と一緒に何かを最後まで取り組み、感謝され気持ちよく終わる場面を通じ、相手に沿い、応えることの心地よさを知ってほしいと思います。“お手伝い”も、習慣になれば“お当番”みたいになりますね。

その“お当番”です。これは、どこか集団に所属していれば、順番が回ってくるお仕事ですね。“お手伝い”は助っ人ですが、“お当番”は任されたお仕事です。やることは決まっています、何をどうすればよいか、シナリオも決まっています。お当番さんが言うセリフも決まっています。普段から誰かがやっているのを目にしているので、わかりやすさがあります。誰かと一緒にやることが多いと思いますので、具体的な見本もあります。そして「お当番さんありがとう」で、必ず気持ちよく終われます。こんなにわかりやすく安心できるやりとりはありませんね。身近な誰かと一緒にやりとりをしながら、任務をこなし、ハッピーエンドで終われる最高のコミュニケーションです。

関わりが苦手な子にお勧めの『お手伝い&お当番マジック』。子ども達みんながやりたがるのは、そう、ハッピーエンドの心地よさを、わかっているからかもしれません。(R5. 9) K

